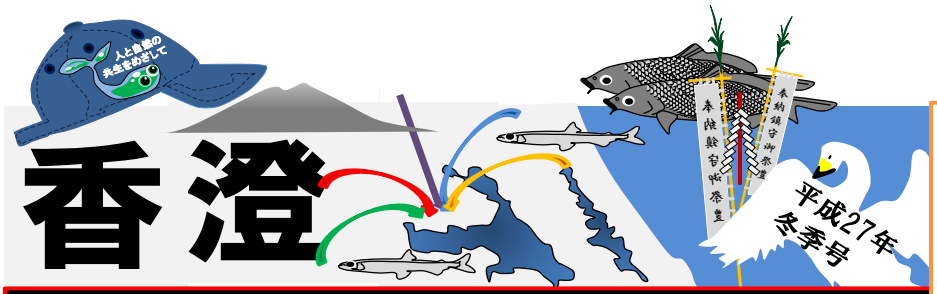


パートナー情報誌　KASUMI　第2号（通巻40号）

発行日：平成27年1月31日
発行人；パートナー情報誌
「香澄」編集委員会

編集委員：
浅野明宏、尾形孝彦、新関紀文、
廣原毅、安川敏行、渋谷一貴、
戸井昌子、土肥奈津子、坂巻佳織

平成 26 年度「霞ケ浦湖岸植物同好会」活動の概況

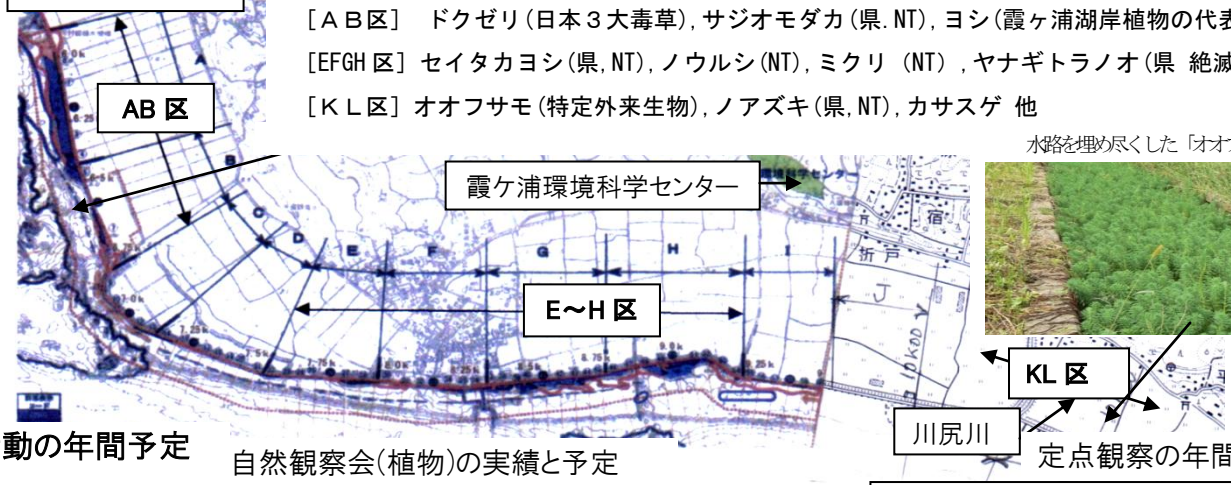
植物同好会でのパートナー活動では、センター主催の「**自然観察会(植物)**」に於ける運営補助作業と、“パートナーの自主企画活動”として毎月実施する湖岸での「**植物定点観察**」の環境学習推進活動を行っています。

自然観察会(植物)は霞ヶ浦流域内の植物観察を通して霞ヶ浦の水質浄化に関心を深めてもらう目的で、各月、原則第３土曜日に実施が予定されています。

定点観察活動はセンター直下の湖岸(下図)において、水質や気象の変動など環境の変化が植物相に及ぼす影響を見るため、毎月第４水曜日を定例日に、絶滅危惧種や特定外来生物など継続調査を指定した植物は年間を通して、又花や実、冬芽など特徴のある植物についても適時に観察・記録して、その生態写真に説明を付してセンター展示コーナーに掲示しています。(同好会代表　パートナー　有吉)

自然観察会における解説・記録活動

定点観察位置図



[定点観察活動で継続観察する主な植物]

[ＡＢ区]　ドクゼリ(日本３大毒草)，サジオモダカ(県. NT)，ヨシ(霞ヶ浦湖岸植物の代表種)

[EFGH 区] セイタカヨシ(県, NT)，ノウルシ(NT)，ミクリ（NT），ヤナギトラノオ(県 絶滅危惧Ⅱ類) 他

[ＫＬ区] オオフサモ(特定外来生物)，ノアズキ(県, NT)，カサスゲ 他

水路を埋め尽くした「オオフサモ」

活動の年間予定

自然観察会(植物)の実績と予定

月日	テーマ	場所
4-19(土)	春･第１回自然観察会(植物)	つくば市小田「宝篋山」
5-24(土)	春･第４回自然観察会(植物)	稲敷市浮島：妙岐の鼻
6-15(日)	初夏･第5回自然観察会(植物)	潮来市･水郷県民の森
6-21(土)	環境月間：植物ウィーク	センター：前庭の観察(福田先生)
7-5(土)	霞ヶ浦水辺ふれあい事業	湖岸再生事業　AB区
8-9(土)	夏の湖岸植物観察(ﾐｸﾘ､ﾋﾅｷﾞｷｮｳ) -第７回自然観察会(植物)-	霞ヶ浦ふれあいランド (行方市玉造･高須崎公園)
8-23(土)	センター「夏まつり」	生きものの庭：植物観察
11-15(土)	第 10 回自然観察会 -霞ヶ浦の地形と地層の成り立ち-	潮来市大生 茨城大･広域水圏センター

定点観察の年間予定

活動月日	関連活動
春　4-23	
5-28	
夏　6-25	県環境ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ（成島　明 先生）
7-23	
8-27	
秋　9-24	県環境ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ
10-22	
11-26	
冬 12-24	
H 27-1-28	
2-25	
春　3-18	植物専門家の招聘
3-25	植物同好会会議

読み聞かせ活動紹介

ご紹介する読み聞かせ活動は、今年度のパートナー制度改正以前は図書グループの自主活動「おはなし水あおいの会」として活動していました。現在は、その時のメンバーを中心に「絵本や紙芝居の読み聞かせを通して、子どもたちとふれ合う事が楽しく好きだ。」「読み聞かせ活動を継続しよう。」という同好の志が相集まって活動しています。活動日は、センター夏まつりなどセンターイベント開催月を除く、（原則）毎月第３土曜日午後１時 30 分頃からです。開催日に集まる熱意のあるパートナーは２～３名で、聞いてくれるお客さんもほぼ同数の幼稚園児から小学校低学年生３～５名、ときには０の日もあるというのが悩みの種です。この活動を継続発展させる為には、聞き手と場面を共有できる絵本、紙芝居の選定と話し方の練習に努めることは勿論ですが、さらに折り紙や手品、アクリルタワシ作りなど聞いてくれる人が参加する読み聞かせであってもよいのでは、と思っております。折り紙や手品、アクリルタワシ作りでご一緒できるパートナーの皆さん、第３土曜日の午後１時 30 分センターにご参集ください。一緒に読み聞かせ活動を楽しんで参りましょう。

読み聞かせ活動風景１

読み聞かせ活動風景２

（パートナー　浅野）

地球温暖化防止に関するニュース拾い読み

現在わたしは、茨城県の地球温暖化防止活動推進員という立場にある。これはボランティアではあるが、環境活動の重要な担い手であると認識している。このほかにも霞ケ浦環境科学センターのパートナーとして、有志によるゴミ拾い活動に賛同、また地域イベントでは子供たちのエネルギー・環境関連の学習を支援、さらに里山での草刈りなど里山保全活動にも積極的に参加している。地球の自然を大切にし、後世に残したい一心から、出来る限り諸般の活動に参加しているのである。こうした取り組みの詳細は随時、今後の「香澄」で是非紹介することとしたい。今回は特にわたしの活動メインでもある、温暖化問題に関連したニュースの放送があったのでこれを紹介する。以下番組の内容である。注目すべき点は何か？それは中国とアメリカが、気候変動枠組み条約第 21 回締約国会議（COP21）に参加すると表明したことであろう。これを機に世の人びとが本腰を入れ、地球温暖化防止に協力することを願っている。

◇ニュース内容◇　「2014 年に南米ペルーで開かれた気候変動枠組み条約第 20 回締約国会議（COP20）では世界 190 以上の国と地域が参加して地球温暖化対策が話し合われた。COP20 に先立ち、世界最大の温室効果ガス排出国の中国は 2030 年頃に排出量を減少に転じさせると発表し、第２位のアメリカも温室効果ガスを 2025 年に 2005 年比で 26～28％減らすとした積極的な目標を明らかにした。そして、2015 年 11 月末にフランス・パリで開かれる COP21 では、いよいよ全ての国が参加する 2020 年以降の温暖化対策の枠組みが決まる事になる。大胆な削減目標を打ち出すアメリカや中国、ヨーロッパ各国に比べて国際交渉では一歩遅れをとる我が国だが、日本の持つ高い環境技術は注目されている。」　（日テレＷｅｂニュースより）

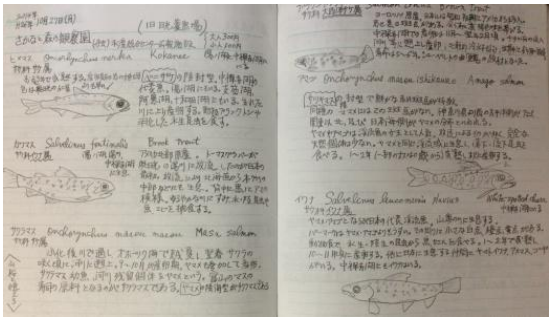
（パートナー　廣原）

奥日光・中禅寺湖のマスをたずねて

霞ヶ浦を深く知るためには、ほかの湖沼との比較は欠かせない。ふらり、海なし県のお隣栃木、奥日光の中禅寺湖に撮影取材に出た。宇都宮は無難に通過したが、紅葉のいろは坂で渋滞にあう。進むも戻るもかなわず。２時間後中禅寺湖に到着したが、もう撮影もできない日没の暮れ。期待の名瀑、華厳の滝も見えない。このまま帰れば労力が無駄になる。そこで想定外の車中泊を決断。立木観音前に駐車し、湖畔の闇の秋の夜長をラジオで過ごす。専門家の虫のはなし、ガンセンター所長の講演、小林克也の歌番組、SMAP の番組と・・・。翌朝寒さで目覚めた。日の光でくっきりとシャドーを帯びた男体山が目の前に。澄んだ底の見える湖も現れおどろく。霞ヶ浦に比べれば富栄養化度は低い。当然生息魚種も異なる。湖面にはワカサギの釣り舟が一斉に浮かぶ。朝食には店

で日光の魚の王様と謳われるヒメマスを頼んだ。塩焼き定食である。マスはサケ科であるが、海産のシロサケの塩焼きとも、また他の海産魚の焼き魚とも風味は異なる。思ったより大きい。肉厚、焼き立てで実においしい。湖畔にある（独）水産総合センターの広報・研究施設、「さかなと森の観察園」を訪問した。旧日光養魚場である。放流・移入事業で、ヒメマス、カワマス（ブルックトラウト）、ブラウントラウト、ニッコウイワナ、レイクトラウト、ホンマス(地元での呼称)、ニジマスが中禅寺湖・湯ノ湖周辺に生息する。マスもおもしろい。「名物にうまいものありますのすし」はサクラマス、シューベルトの名曲「鱒」はブラウントラウトである。同施設の見学料は３００円。木漏れ日の照らす日光の清流をたたえる池に種類ごとに分別。エサやりもできる。資料館もあり、国立公園の真っただ中で生きた知識を享受できた。栃木といえばやはり栃木水試の開発したヤシオマス（ニジマスの３倍体）であろう。日光でも養殖されている。帰りは奮起して群馬側へと冒険に出た。途中の菅沼で揚げたて名物生湯葉カツで一息。紅葉の素晴らしき国道 120 号を丸沼高原にぬけた。さらに真田の里、上州沼田からＪＲ上越線沿いに前橋へ、さらに赤城山を横目に桐生、小山、筑西、そしてつくばへとぬけた。見知らぬ不安な道中を経て、日没宅までたどり着く。振り返れば北関東を股にかけた一周旅となっていた。

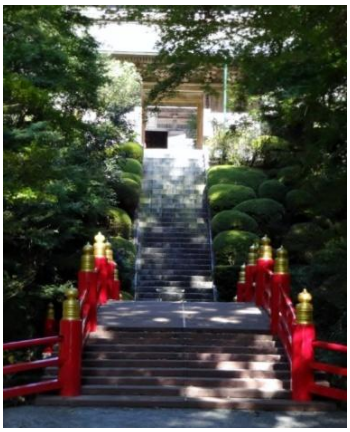
（パートナー　新関）



「私の細道」（その１２）　雲厳寺

黒羽に着いた芭蕉のまず訪れたいと思ったところが、仏頂和尚ゆかりの臨済宗の名刹雲厳寺であった。

芭蕉（当時の桃青）は、延宝８年(1680 年)に江戸・深川の草庵に移り住んだが、この折、仏頂と深い親交のあったことは既に記した。この時期、芭蕉は従来の作風から抜け出して新たな境地へと達する事となるが、その変化に仏頂の影響が極めて大きかったと云われている。芭蕉の侘びの境地には、仏頂の禅哲学が色濃く影響している。貞享４年（1687 年）の鹿島詣でも芭蕉は仏頂と親しく旧交を結んでいる。



雲厳寺

仏頂は、寛永１９年（1642 年）常陸国阿玉（現鉾田市）に生まれ、８歳で鹿島根本寺（鹿島神宮側）に入り、若い頃に雲厳寺でも修業している。その後、延宝２年(1674 年)、根本寺住職となった折、鹿島神宮に横取りされた土地の所有権返還を求め幕府に訴訟を申し立てた。その訴訟の為に用いた江戸出府の宿泊所が、深川の臨川庵であった。仏頂はその訴訟の最中にも一時期、雲厳寺で修業している。

みちのくへの旅に出て５日後に黒羽に来た芭蕉と曾良は、１４日間の長逗留の中で、初日は翠桃邸に泊まり、翌日より７日間は城代家老浄法寺高勝邸に滞在する事になるが、その２日目には雲厳寺を訪れている。「おくのほそ道」でも黒羽の中で別章を設けており、雲厳寺参詣に対する期待の大きさが分かる。

私はこの地を２回訪れた。最初は、平成２５年８月２９日、日光から芭蕉の旅の後を追って黒羽まで妻と車を走らせた折の事で、雲厳寺に着いたのは既に午後５時であった。黒羽市街から山道を東へ約１２㎞行くと雲厳寺山門に着く。山門の前に立った私と妻は、既に陽が陰り始めている中での荘厳な威容に息を呑む思いがした。清流に架かる朱塗りの太鼓橋を越えると、急な石段があり、山門を抜けると広い境内に入る。平日で夕方でもあった為か、既に境内には人影は無く、秋桜が風に揺れていた。境内に、仏頂の和歌と芭蕉の句を刻んだ碑がある。

仏頂が修行時代に雲厳寺に籠って、「竪横の五尺にたらぬ草の庵むすぶもくやし雨なかりせば」という歌を残していると聞いた芭蕉は、これを是非とも見たいと思ったのであろう。訪れた芭蕉は次の句を「おくのほそ道」に残した。

木啄も庵はやぶらず夏木立　　芭蕉

揚句は、芭蕉の仏頂への尊敬の念を木啄の習性に掛けて作句した挨拶句であると云われている。嘴が強く樹に穴を開けていく啄木鳥も尊い仏頂師の庵には遠慮しているとの意。

仏頂の根本寺土地所有権返還訴訟は９年後の天和２年(1682 年)に勝訴するが、仏頂は寺領返還と共に住職の座を後進に譲り、寺境内にある長興庵に隠棲する。この時期、出生地阿玉村で廃庵となっていた大儀庵を大儀寺として復興させ、その住職にもなっている。貞享４年（1687 年）芭蕉が鹿島を訪れた際に、仏頂と会った場所は根本寺であるとされているが、いや、大儀寺であるという説もある。

その後仏頂は、元禄８年(1695 年)臨川庵を寺とするため再度幕府に請願し、18 年後の正徳３年(1713 年)、「臨済宗妙心寺派瑞甕山臨川寺」の山号寺号が許可された。これが深川臨川寺の創始である。まさに、寺復興に生涯を掛けたとも云える。仏頂禅師は雲巌寺四十五世徹通和尚と親交が厚く、晩年は雲巌寺で山庵を営んだが、正徳５年(1715 年)、病によりこの山庵で没している。享年 74 歳であった。

私の２度目の訪問は、１年後の平成２６年１０月２９日の朝であった。時期としては２ヶ月ずれており、境内に咲いていたあの頃のコスモスはもう無かった。山門は厳めしいが、内部は日本庭園の如き柔らかさがある。仏殿裏にある方丈の石段にご住職であろうか、一人の作務僧が居て「まだ、紅葉は早いね」と言う。仏頂の庵はと問うと、向かって右側の山の方を指して、「今、誰も入れない。私も筍を採りに行くくらいだ。猪もいるよ。」と言う。水が冷たかった。

（パートナー　小松）

◇２月開催イベントのお知らせ◇

「パートナー全体研修・交流会」　２月７日（土）１３時から１５時３０分

今回は、「愛・地球博」の森の自然学校・里の自然学校統括プロデューサーを務められるなど、長年，参加体験型環境教育のプログラム開発や人材育成でご活躍されている（公財）キープ協会の川嶋直先生の講演とパートナー自主活動を中心に活動報告を予定しています。是非ご参加ください。

「環境学習フェスタ」　２月２８日（土）１０時から１５時３０分

この催事は、県内小学生による「環境学習発表会」を主催事として、湖上体験スクール参加校感謝状贈呈，センターパートナー感謝状贈呈をおこなうとともに、研究室一般公開，おもしろ実験教室，サイエンスラボの各種体験型イベントを実施する予定です。当日はパートナーの皆様にご協力いただき、環境学習フェスタを盛り上げていきたいと考えていますのでご協力の程、よろしくお願いいたします。

※両イベントとも参加申込期限は過ぎていますが，ご都合のつく方は是非ご参加ください。ご連絡をお待ちしております。

（センター　川田）

編集後記

センターの２階にも受付カウンターがありました。文献資料室です。今回紹介する坂巻佳織さんはそこの担当者です。坂巻さんは「図書館司書」という特別の資格をお持ちで、普段は書籍の管理から利用者へのサービスの提供、香澄の編集委員まで幅広く業務を担当されています（実は本だけでなく紙芝居まであります）。坂巻さんらは来館者の積極的な図書施設の活用を期待してやみません。

今月のくま君は
水戸黄門様

皆様からの寄稿をお待ちしております！原稿は２階パートナールーム内に設置の手作りボックスまでお願い致します。　（パートナー　新関）